

## 平成30年度 事務事業評価(平成29年度実施事業)

| No. | 部等名称  | 課等名称 | 担当名称   | 中事業名称       | 評価結果 |     |     | ページ数    |
|-----|-------|------|--------|-------------|------|-----|-----|---------|
|     |       |      |        |             | 第1次  | 第2次 | 第3次 |         |
| 1   | 総合政策部 | 企画課  | 企画調整担当 | デマンド交通運行事業  | 改善   | 改善  | 改善  | 1 ~ 5   |
| 2   |       |      |        | バス路線等運行補助事業 | 改善   | 改善  | 改善  | 6 ~ 10  |
| 3   |       |      |        | 市営バス運行事業    | 改善   | 改善  | 改善  | 11 ~ 15 |
| 4   |       | 財政課  | 財政担当   | 行政放送事業      | 継続   | 継続  | 継続  | 16 ~ 20 |
| 5   |       |      |        | 財政管理事務      | 継続   | 継続  | 継続  | 21 ~ 25 |

| 評価結果 | 第1次評価 | 第2次評価 | 第3次評価 |
|------|-------|-------|-------|
| 拡充   | 0     | 0     | 0     |
| 継続   | 2     | 2     | 2     |
| 改善   | 3     | 3     | 3     |
| 縮小   | 0     | 0     | 0     |
| 統合   | 0     | 0     | 0     |
| 廃止   | 0     | 0     | 0     |
| 計    | 5     | 5     | 5     |

# 事務事業概要書

|   |            |    |          |               |           |
|---|------------|----|----------|---------------|-----------|
| 平成  | 30         | 年度 | 担当者名     | 小林 健人         |           |
| 会計  | 01 一般会計    |    | 所属       | 総合政策部         | 企画課企画調整担当 |
| 款   | 総務費_02     | 項  | 総務管理費_01 | 目             | 14諸費      |
| 大事業   | 010 バス運行事業 |    | 中事業      | 04 デマンド交通運行事業 |           |
| <b>1 事務事業の目的</b>  |            |    |          |               |           |
| 日常生活に必要な移動手段として、デマンドタクシーの運行(生活の足)を維持確保する。   |            |    |          |               |           |
| <b>2 事務事業の対象</b>  |            |    |          |               |           |
| 主にデマンド運行区域に居住している地域住民   |            |    |          |               |           |
| <b>3 現在の状態</b>  |            |    |          |               |           |
| 御坂町及び石和町地内において、地域のコミュニティ施設や病院、公共施設などを中心に、67か所の停留所を設置し、石和温泉駅を基点としたデマンドタクシーをそれぞれ運行している。登録者数は平成29年度末で2740人である。                                     |            |    |          |               |           |
| <b>4 経緯</b>   |            |    |          |               |           |
| 車社会の進展に伴い、利用者の減少、赤字路線の拡大・撤退により、民間交通事業者が担っていた地域公共交通網の弱体化が進んだため、自治体がシビルミニマムとして通院・買い物など地域住民の日常生活に必要な移動手段を確保することとなった。                               |            |    |          |               |           |
| <b>5 根拠法令</b>   |            |    |          |               |           |
| 根拠法令なし<br>(関係法令として、道路運送法、地域公共交通活性化及び再生に関する法律など)   |            |    |          |               |           |
| <b>6 ニーズ</b>  |            |    |          |               |           |
| 交通弱者等の市民⇒公共施設や医療機関、商業施設等へ不自由なく行きたい。   |            |    |          |               |           |
| <b>7 ニーズを踏まえた課題認識</b>   |            |    |          |               |           |
| ニーズにぴったりと合ったダイヤ、ルートになっているのか、調査を行ったうえで、効率の良い市公共交通の在り方を検討する必要がある。<br>その上で、移動手段の充実及び利便性の向上を図る一方で、運行経費の削減や収入の増加など効率性の維持・向上も図らねばならず、双方のバランスを取る必要がある。 |            |    |          |               |           |
| <b>8 必要性</b>  |            |    |          |               |           |
| 市民、特に高齢者等の日常生活に必要な移動手段として、デマンドタクシーの運行(生活の足)を維持確保することは、通院、買い物、余暇活動など、利用者本人の生活の質(QOL)の向上のみならず、地域の社会インフラとして地域の持続性を保つためにも必要である。                     |            |    |          |               |           |

|  |
|--|
| <b>9 昨年度実施した事業内容</b>   |
| <p>1 実施内容<br/>御坂町及び石和町地域において、デマンドタクシーの運行を行った。</p> <p>2 歳入<br/>(1) 使用料及び手数料(デマンド交通回数券販売代金) 891千円<br/>(2) 雑入(デマンド交通運行精算金)6,444千円</p> <p>3 歳出<br/>委託料 11,093千円<br/>(みさかルート運行委託 4,999千円、ふじみルート運行委託6,094千円)</p> |
| <b>10 事業で得られた成果</b>  |
| <p>高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保したほか、鉄道や石和温泉駅に接続する幹線系統とのアクセス機能を高めることで、公共交通で対応可能な移動範囲を拡大した。</p> <p>デマンド交通利用者数<br/>みさかルート H29 3,736人、H28 4,621人、H27 4,701人<br/>ふじみルート H29 4,310人、H28 3,828人、H27 3,097人</p>            |
| <b>11 事業の効果</b>  |
| <p>当該地域の公共交通の活性化や利用者の利便性向上に寄与した。</p>   |
| <b>12 事業実施期間</b>   |
| <p>平成24年度～ 終期設定なし<br/>※本事業は、国の地域公共交通確保維持改善事業費補助金を活用しており、当該補助金の対象期間が交付を受けようとする会計年度の9月30日を末尾とする1年間のため、長期継続契約としている。</p>   |
| <b>13 行政が関与する妥当性</b>   |
| <p>道路運送法並びに地域公共交通の活性化及び再生に関する法律を考慮すると、基礎自治体である市が地域住民の日常生活に必要な移動手段を維持確保することは妥当である。公共交通は地域によって営利事業として成立しにくく、路線バスの撤退が相次ぐなど公共交通網の弱体化が進行しているが、日常生活に不可欠な社会インフラであるため、行政が関与することが妥当である。</p>                         |
| <b>14 緊急性</b>  |
| <p>なし</p>  |
| <b>15 類似事業</b>   |
| <p>なし</p>  |

## 評価調書

|       |                  |
|-------|------------------|
| 事務事業名 | デマンド交通運行事業       |
| 所 属 名 | 総合政策部 企画課 企画調整担当 |

### 1 所管課による評価

#### (1) 事務事業を実施する妥当性

|       |   |
|-------|---|
| 評価結果  | <input type="radio"/> ① 不特定多数の市民に提供され、日常生活に必要不可欠なサービス       |
|       | <input checked="" type="radio"/> ② 不特定多数の市民に提供されるが、選択的なサービス |
|       | <input type="radio"/> ③ 特定の個人又は集団に提供され、日常生活に必要不可欠なサービス      |
|       | <input type="radio"/> ④ 特定の個人又は集団に提供され、選択的なサービス             |
| 評価の根拠 | 沿線に在住の方で、かつ高齢者や車を利用できない交通弱者が主に利用している。                       |

#### (2) 行政が関与する妥当性

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 評価結果                    | <input type="radio"/> ① 法令及び条例によりサービスが義務付けられている事業   |
|                         | <input type="radio"/> ② 国、県、市の共同事業  |
|                         | <input type="radio"/> ③ 民間ではできない、又は民間では実施していない事業  |
|                         | <input checked="" type="radio"/> ④ 民間に同様、類似のサービスがあるが、質や量が不十分なため、補完する事業  |
|                         | <input type="radio"/> ⑤ 民間に同様、類似のサービスが存在する事業  |
| 評価の根拠                   | 民間の路線バスは路線数が不十分なため、空白となっている地域の公共交通サービスを行っている。また、運賃についても、生活の足であることを考慮し、社会的経済事情に照らし利用者に過度の負担を強いることがないよう類似の民間事業者より安価に設定している。 |
| ①の場合、市が拡充(上乘せ)している事業である | <input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ  |
| 拡充の理由                   |   |

#### (3) 事務事業を実施する現時点での緊急性、切実度

|                        |  |
|------------------------|--|
| 評価結果                   | <input type="radio"/> ① 緊急事態への対応、最重要施策など最優先して実施する必要がある事業             |
|                        | <input checked="" type="radio"/> ② 日常的な安全、生活を確保するために、優先して実施する必要がある事業 |
|                        | <input type="radio"/> ③ 公共サービスの平均的水準を確保するために、実施する必要がある事業             |
|                        | <input type="radio"/> ④ 現時点での緊急性、切実度は低いものの、市の将来のために、実施することが望ましい事業    |
|                        | <input type="radio"/> ⑤ 現時点では、必ずしも実施しなくても良い事業                        |
| 評価の根拠                  | 公共交通の充実は、通院や買い物など日常生活に不可欠なものであり、暮らしやすいまちづくりを実現するために継続して実施する必要がある。    |
| いつから、いつまで実施しなければならないのか | 終期設定なし   |

#### (4) 市民ニーズ

|       |   |
|-------|---|
| 評価結果  | <input type="radio"/> ① 市民ニーズの有無にかかわらず実施する必要がある事業           |
|       | <input checked="" type="radio"/> ② 市民ニーズが増加傾向にある事業          |
|       | <input type="radio"/> ③ 市民ニーズが現状維持の傾向にある事業                  |
|       | <input type="radio"/> ④ 市民ニーズが減少傾向にある、あるいは事業に対する市民ニーズが曖昧である |
| 評価の根拠 | 超高齢化社会を迎え、車を運転しない高齢者はさらに増加していくものと予想される。                     |

## 評価調書

|       |                  |
|-------|------------------|
| 事務事業名 | デマンド交通運行事業       |
| 所 属 名 | 総合政策部 企画課 企画調整担当 |

### (5) サービスを提供する主体の妥当性

|       |  |
|-------|--|
| 評価結果  | <input type="radio"/> ① 市が直営で実施すべき事業                                 |
|       | <input checked="" type="radio"/> ② 事業の一部、又は全部を民間委託すべき事業で、適切に委託している事業 |
|       | <input type="radio"/> ③ 事業の一部、又は全部を民間委託すべき事業で、委託の範囲に見直しの余地がある事業      |
|       | <input type="radio"/> ④ 事業の一部、又は全部を民間委託すべき事業だが、委託を行っていない事業           |
| 評価の根拠 | 道路運送法第4条許可による運送や電話受付、配車手配等を考慮すると、事業の全部を民間に委託することが適切である。              |

### (6) コストに対する評価

|                                   |   |   |                          |        |   |                     |        |   |
|-----------------------------------|---|---|--------------------------|--------|---|---------------------|--------|---|
| 年間経費(a)                           | 14,233,644  | 円 | 御坂町及び石和町在住市民<br>受益者数 (b) | 39,118 | 人 | 受益者あたりのコスト<br>(a/b) | 363.86 | 円 |
| 評価結果                              | <input type="radio"/> ① 事業の成果及び効果に対し、最小限のコストで実施できている      |   |                          |        |   |                     |        |   |
|                                   | <input checked="" type="radio"/> ② 事業の成果及び効果に対し、コストは妥当である |   |                          |        |   |                     |        |   |
|                                   | <input type="radio"/> ③ 事業の成果及び効果に対し、過大なコストが掛かっている        |   |                          |        |   |                     |        |   |
| 評価の根拠                             | バスより運営経費が少なく、一宮循環バスや市営芦川バスと比べ低コストで運行している。                 |   |                          |        |   |                     |        |   |
| コスト削減のための方策について記載                 |   |   |                          |        |   |                     |        |   |
| 利用促進に向けて、PR、利用実態調査などを行い、運行収入を上げる。 |   |   |                          |        |   |                     |        |   |

## 2 経費

|                |           | H27年度       |            | H28年度       |            | H29年度       |            |
|----------------|-----------|-------------|------------|-------------|------------|-------------|------------|
| ① 事業費          | 円         | 11,424,211円 |            | 11,536,382円 |            | 11,093,622円 |            |
| ② 人件費          |           | 延従事者数       | 人件費        | 延従事者数       | 人件費        | 延従事者数       | 人件費        |
|                | 正 職 員     | 0.4 人       | 3,140,022円 | 0.4 人       | 3,140,022円 | 0.4 人       | 3,140,022円 |
|                | 再 任 用 職 員 | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         |
|                | 嘱 託 職 員   | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         |
|                | 臨 時 職 員   | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         |
|                | 人件費計      | 3,140,022円  |            | 3,140,022円  |            | 3,140,022円  |            |
| ③ 年間経費 (①+②)   |           | 14,564,233円 |            | 14,676,404円 |            | 14,233,644円 |            |
| ④ 国支出金         | 円         | 6,167,000円  |            | 6,476,000円  |            | 6,444,000円  |            |
| ⑤ 県支出金         | 円         | 0円          |            | 0円          |            | 0円          |            |
| ⑥ 地方債          | 円         | 0円          |            | 0円          |            | 0円          |            |
| ⑦ 使用料・手数料      | 円         | 971,000円    |            | 880,000円    |            | 891,000円    |            |
| ⑧ 財源合計 (④+⑤+⑦) |           | 7,138,000円  |            | 7,356,000円  |            | 7,335,000円  |            |
| ⑨ 市の負担額 (③-⑧)  |           | 7,426,233円  |            | 7,320,404円  |            | 6,898,644円  |            |
| ⑩ 受益者負担率 (⑦/③) | %         | 6.67%       |            | 6.00%       |            | 6.26%       |            |

## 評価調書

|       |                  |
|-------|------------------|
| 事務事業名 | デマンド交通運行事業       |
| 所 属 名 | 総合政策部 企画課 企画調整担当 |

### 3 部長等による第1次評価

|                                     |                   |  |
|-------------------------------------|-------------------|--|
| 総合評価                                | 評価<br>の<br>根<br>拠 | 本市の地域公共交通は、サービスの地域間格差や利用者の減少といった課題を抱えている。<br>その課題の解決を図るため、今年度から地域公共交通の在り方を検討する。その中で、移動に関する市民ニーズを把握するための調査を実施し、それらのニーズに市としてどのように対応するのか、地域公共交通、福祉、市民活動等関係部署が一体となり、移動支援の仕組みを構築する。 |
| <input type="radio"/> 拡充            |                   |  |
| <input type="radio"/> 継続            |                   |  |
| <input checked="" type="radio"/> 改善 |                   |  |
| <input type="radio"/> 縮小            |                   |  |
| <input type="radio"/> 統合            |                   |  |
| <input type="radio"/> 廃止            |                   |  |

### 4 総合政策部による第2次評価

|                                     |                   |  |
|-------------------------------------|-------------------|--|
| 総合評価                                | 評価<br>の<br>根<br>拠 | 本市の地域公共交通は、サービスの地域間格差や利用者の減少といった課題を抱えている。<br>その課題の解決を図るため、今年度から地域公共交通の在り方を検討する。その中で、移動に関する市民ニーズを把握するための調査を実施し、それらのニーズに市としてどのように対応するのか、地域公共交通、福祉、市民活動等関係部署が一体となり、移動支援の仕組みを構築する。 |
| <input type="radio"/> 拡充            |                   |  |
| <input type="radio"/> 継続            |                   |  |
| <input checked="" type="radio"/> 改善 |                   |  |
| <input type="radio"/> 縮小            |                   |  |
| <input type="radio"/> 統合            |                   |  |
| <input type="radio"/> 廃止            |                   |  |

### 5 第3次評価

|                                     |                   |        |
|-------------------------------------|-------------------|--------|
| 総合評価                                | 評価<br>の<br>根<br>拠 | 上記のとおり |
| <input type="radio"/> 拡充            |                   |        |
| <input type="radio"/> 継続            |                   |        |
| <input checked="" type="radio"/> 改善 |                   |        |
| <input type="radio"/> 縮小            |                   |        |
| <input type="radio"/> 統合            |                   |        |
| <input type="radio"/> 廃止            |                   |        |

# 事務事業概要書

|  |            |    |          |                |           |
|--|------------|----|----------|----------------|-----------|
| 平成   | 30         | 年度 | 担当者名     |                | 小林 健人     |
| 会計   | 01 一般会計    |    | 所属       | 総合政策部          | 企画課企画調整担当 |
| 款  | 総務費_02     | 項  | 総務管理費_01 |                | 目 14諸費    |
| 大事業  | 010 バス運行事業 |    | 中事業      | 02 バス路線等運行補助事業 |           |
| <b>1 事務事業の目的</b>   |            |    |          |                |           |
| 日常生活に必要な移動手段として、路線バスの運行(生活の足)を維持確保する。  |            |    |          |                |           |
| <b>2 事務事業の対象</b>   |            |    |          |                |           |
| バス運行事業者(赤字バス補助金)<br>市民(自主運営バス運行)   |            |    |          |                |           |
| <b>3 現在の状態</b>   |            |    |          |                |           |
| 不採算のバス路線を運行する乗合バス事業者に対し、次のとおり補助金を交付している。<br>山梨交通バス 6,900,000円(5路線)<br>富士急山梨バス 4,430,000円(1路線)<br>栄和交通バス 1,800,000円(1路線)<br>また、廃止代替線として甲府市と共同委託を行い長塚～奈良原線を運行している。 |            |    |          |                |           |
| <b>4 経緯</b>  |            |    |          |                |           |
| 車社会の進展に伴い、利用者の減少、赤字路線の拡大・撤退により民間交通事業者が担っていた地域公共交通網の弱体化が進んだため、自治体がシビルミニマムとして通院・買い物など地域住民の日常生活に必要な移動手段を確保することとなった。   |            |    |          |                |           |
| <b>5 根拠法令</b>  |            |    |          |                |           |
| 根拠法令なし<br>(関係法令として、道路運送法、地域公共交通活性化及び再生に関する法律など)  |            |    |          |                |           |
| <b>6 ニーズ</b>   |            |    |          |                |           |
| 交通弱者等の市民⇒公共施設や医療機関、商業施設等へ不自由なく行きたい。<br>山梨県及び沿線市⇒協調して補助金の交付   |            |    |          |                |           |
| <b>7 ニーズを踏まえた課題認識</b>  |            |    |          |                |           |
| 利用者数が少なく、国庫補助の水準に満たない路線もあり、多額の補助金を交付している状況である。<br>また、補助金の廃止は路線の廃止に結びつく可能性が高く、路線によっては代替の便がないため交通空白地域となる可能性がある。補助金を廃止する場合は、事業者のほかに山梨県及び沿線市との合意形成が必要となる。            |            |    |          |                |           |
| <b>8 必要性</b>   |            |    |          |                |           |
| 市民、特に高齢者等の日常生活に必要な移動手段として、路線バスの運行(生活の足)を維持確保することは、通院、買い物、余暇活動など、利用者本人の生活の質(QOL)の向上のみならず、地域の社会インフラとして地域の持続性を保つためにも必要である。  |            |    |          |                |           |

|   |
|---|
| <b>9 昨年度実施した事業内容</b>  |
| <p>実施内容：<br/>         自主運営バス(奈良原線)の運行及び市内を運行する民間バス路線への赤字額の一部補助</p> <p>歳入：<br/>         自主運営バス運行費補助金 1,489千円</p> <p>歳出：<br/>         ①委託料 9,148千円(奈良原線運行委託)<br/>         ②負担金補助及び交付金 13,130千円<br/>         (山梨交通 6,900千円、富士急山梨バス4,430千円<br/>         栄和交通 1,800千円)</p> |
| <b>10 事業で得られた成果</b>   |
| <p>自主運営バスの運行や地域間幹線の補助を行うことで、市外とのアクセス機能が維持された。</p>   |
| <b>11 事業の効果</b>   |
| <p>自主運営バスの委託や赤字路線の補てんを行うことで、路線の維持を行い、公共交通の活性化や利用者の利便性向上に寄与した。</p>   |
| <b>12 事業実施期間</b>  |
| <p>終期設定なし</p>   |
| <b>13 行政が関与する妥当性</b>  |
| <p>道路運送法並びに地域公共交通の活性化及び再生に関する法律を考慮すると、基礎自治体である市が地域住民の日常生活に必要な移動手段を維持確保することは妥当である。公共交通は地域によって営利事業として成立しにくく、路線バスの撤退が相次ぐなど公共交通網の弱体化が進行しているが、日常生活に不可欠な社会インフラであるため、行政が関与することが妥当である。</p>  |
| <b>14 緊急性</b>   |
| <p>なし</p>   |
| <b>15 類似事業</b>  |
| <p>なし</p>   |



# 評価調書

|       |                  |
|-------|------------------|
| 事務事業名 | バス路線等運行補助事業      |
| 所属名   | 総合政策部 企画課 企画調整担当 |

## 1 所管課による評価

### (1) 事務事業を実施する妥当性

|       |   |
|-------|---|
| 評価結果  | <input type="radio"/> ① 不特定多数の市民に提供され、日常生活に必要不可欠なサービス   |
|       | <input checked="" type="radio"/> ② 不特定多数の市民に提供されるが、選択的なサービス   |
|       | <input type="radio"/> ③ 特定の個人又は集団に提供され、日常生活に必要不可欠なサービス  |
|       | <input type="radio"/> ④ 特定の個人又は集団に提供され、選択的なサービス   |
| 評価の根拠 | 民間のバス路線の赤字補てんが主であり、市内外を問わず不特定多数の方に提供されるが、車社会の進展に伴いバスの利用者が減少してきていることや、生活路線への補助であり沿線住民以外はサービスを楽しむ機会が少ないことから、必要不可欠までは言えず選択的なサービスとした。 |

### (2) 行政が関与する妥当性

|                         |  |
|-------------------------|--|
| 評価結果                    | <input type="radio"/> ① 法令及び条例によりサービスが義務付けられている事業  |
|                         | <input type="radio"/> ② 国、県、市の共同事業   |
|                         | <input type="radio"/> ③ 民間ではできない、又は民間では実施していない事業   |
|                         | <input checked="" type="radio"/> ④ 民間に同様、類似のサービスがあるが、質や量が不十分のため、補完する事業                           |
|                         | <input type="radio"/> ⑤ 民間に同様、類似のサービスが存在する事業   |
| 評価の根拠                   | 本事業は、民間のバス路線のうち採算が見込めない路線へ赤字補てんを行う事業のため、補完する事業とした。<br>また、自主運営バスは、廃止代替バスとして民間で運行できない路線を補完するものである。 |
| ①の場合、市が拡充(上乘せ)している事業である | <input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ   |
| 拡充の理由                   |  |

### (3) 事務事業を実施する現時点での緊急性、切実度

|                        |  |
|------------------------|--|
| 評価結果                   | <input type="radio"/> ① 緊急事態への対応、最重要施策など最優先して実施する必要がある事業             |
|                        | <input checked="" type="radio"/> ② 日常的な安全、生活を確保するために、優先して実施する必要がある事業 |
|                        | <input type="radio"/> ③ 公共サービスの平均的水準を確保するために、実施する必要がある事業             |
|                        | <input type="radio"/> ④ 現時点での緊急性、切実度は低いものの、市の将来のために、実施することが望ましい事業    |
|                        | <input type="radio"/> ⑤ 現時点では、必ずしも実施しなくても良い事業                        |
| 評価の根拠                  | 公共交通の充実は、通院や買い物など日常生活に不可欠なものであり、暮らしやすいまちづくりを実現するためには継続して実施する必要がある。   |
| いつから、いつまで実施しなければならないのか | 終期設定なし   |

### (4) 市民ニーズ

|       |   |
|-------|---|
| 評価結果  | <input type="radio"/> ① 市民ニーズの有無にかかわらず実施する必要がある事業           |
|       | <input checked="" type="radio"/> ② 市民ニーズが増加傾向にある事業          |
|       | <input type="radio"/> ③ 市民ニーズが現状維持の傾向にある事業                  |
|       | <input type="radio"/> ④ 市民ニーズが減少傾向にある、あるいは事業に対する市民ニーズが曖昧である |
| 評価の根拠 | 超高齢化社会を迎え、車を運転しない高齢者はさらに増加していくものと予想される。                     |

## 評価調書

|       |                  |
|-------|------------------|
| 事務事業名 | バス路線等運行補助事業      |
| 所 属 名 | 総合政策部 企画課 企画調整担当 |

### (5) サービスを提供する主体の妥当性

|       |  |
|-------|--|
| 評価結果  | <input type="radio"/> ① 市が直営で実施すべき事業   |
|       | <input checked="" type="radio"/> ② 事業の一部、又は全部を民間委託すべき事業で、適切に委託している事業   |
|       | <input type="radio"/> ③ 事業の一部、又は全部を民間委託すべき事業で、委託の範囲に見直しの余地がある事業  |
|       | <input type="radio"/> ④ 事業の一部、又は全部を民間委託すべき事業だが、委託を行っていない事業   |
| 評価の根拠 | 公共交通は、安全管理の面で市町村運営有償運送より一般乗合旅客自動車運送事業の許可がある事業者へ委託するほうが望ましく、市町村運営有償運送を行う場合、複数の市町村間を運行するため、新たに広域の運営協議会の設置及び協議が必要となる。 |

### (6) コストに対する評価

|                           |  |   |                |        |   |                     |        |   |
|---------------------------|--|---|----------------|--------|---|---------------------|--------|---|
| 年間経費(a)                   | 23,062,943   | 円 | 市民<br>受益者数 (b) | 69,861 | 人 | 受益者あたりのコスト<br>(a/b) | 330.13 | 円 |
| 評価結果                      | <input type="radio"/> ① 事業の成果及び効果に対し、最小限のコストで実施できている   |   |                |        |   |                     |        |   |
|                           | <input checked="" type="radio"/> ② 事業の成果及び効果に対し、コストは妥当である  |   |                |        |   |                     |        |   |
|                           | <input type="radio"/> ③ 事業の成果及び効果に対し、過大なコストが掛かっている   |   |                |        |   |                     |        |   |
| 評価の根拠                     | 補助金について、キロ当たり経常費用の実績に基づき、赤字額を算出しているため、コストは妥当である。<br>また、委託額についても、地域キロ当たり標準経常費用と同程度の経費で運行を行っているため、妥当である。 |   |                |        |   |                     |        |   |
| コスト削減のための方策について記載         |  |   |                |        |   |                     |        |   |
| 委託額について、1往復あたりの単価の見直しを行う。 |  |   |                |        |   |                     |        |   |

## 2 経費

|                |           | H27年度       |          | H28年度       |          | H29年度       |          |
|----------------|-----------|-------------|----------|-------------|----------|-------------|----------|
| ① 事業費          | 円         | 21,377,316円 |          | 22,186,774円 |          | 22,277,937円 |          |
| ② 人件費          |           | 延従事者数       | 人件費      | 延従事者数       | 人件費      | 延従事者数       | 人件費      |
|                | 正 職 員     | 0.1 人       | 785,006円 | 0.1 人       | 785,006円 | 0.1 人       | 785,006円 |
|                | 再 任 用 職 員 | 0.0 人       | 0円       | 0.0 人       | 0円       | 0.0 人       | 0円       |
|                | 嘱 託 職 員   | 0.0 人       | 0円       | 0.0 人       | 0円       | 0.0 人       | 0円       |
|                | 臨 時 職 員   | 0.0 人       | 0円       | 0.0 人       | 0円       | 0.0 人       | 0円       |
|                | 人件費計      | 785,006円    |          | 785,006円    |          | 785,006円    |          |
| ③ 年間経費 (①+②)   |           | 22,162,322円 |          | 22,971,780円 |          | 23,062,943円 |          |
| ④ 国支出金         | 円         | 0円          |          | 0円          |          | 0円          |          |
| ⑤ 県支出金         | 円         | 1,461,000円  |          | 1,460,000円  |          | 1,489,000円  |          |
| ⑥ 地方債          | 円         | 0円          |          | 0円          |          | 0円          |          |
| ⑦ 使用料・手数料      | 円         | 0円          |          | 0円          |          | 0円          |          |
| ⑧ 財源合計 (④+⑤+⑦) |           | 1,461,000円  |          | 1,460,000円  |          | 1,489,000円  |          |
| ⑨ 市の負担額 (③-⑧)  |           | 20,701,322円 |          | 21,511,780円 |          | 21,573,943円 |          |
| ⑩ 受益者負担率 (⑦/③) | %         | 0.00%       |          | 0.00%       |          | 0.00%       |          |

## 評価調書

|       |                  |
|-------|------------------|
| 事務事業名 | バス路線等運行補助事業      |
| 所 属 名 | 総合政策部 企画課 企画調整担当 |

### 3 部長等による第1次評価

|                                     |                   |  |
|-------------------------------------|-------------------|--|
| 総合評価                                | 評価<br>の<br>根<br>拠 | 本市の地域公共交通は、サービスの地域間格差や利用者の減少といった課題を抱えている。<br>その課題の解決を図るため、今年度から地域公共交通の在り方を検討する。その中で、移動に関する市民ニーズを把握するための調査を実施し、それらのニーズに市としてどのように対応するのか、地域公共交通、福祉、市民活動等関係部署が一体となり、移動支援の仕組みを構築する。 |
| <input type="radio"/> 拡充            |                   |  |
| <input type="radio"/> 継続            |                   |  |
| <input checked="" type="radio"/> 改善 |                   |  |
| <input type="radio"/> 縮小            |                   |  |
| <input type="radio"/> 統合            |                   |  |
| <input type="radio"/> 廃止            |                   |  |

### 4 総合政策部による第2次評価

|                                     |                   |  |
|-------------------------------------|-------------------|--|
| 総合評価                                | 評価<br>の<br>根<br>拠 | 本市の地域公共交通は、サービスの地域間格差や利用者の減少といった課題を抱えている。<br>その課題の解決を図るため、今年度から地域公共交通の在り方を検討する。その中で、移動に関する市民ニーズを把握するための調査を実施し、それらのニーズに市としてどのように対応するのか、地域公共交通、福祉、市民活動等関係部署が一体となり、移動支援の仕組みを構築する。 |
| <input type="radio"/> 拡充            |                   |  |
| <input type="radio"/> 継続            |                   |  |
| <input checked="" type="radio"/> 改善 |                   |  |
| <input type="radio"/> 縮小            |                   |  |
| <input type="radio"/> 統合            |                   |  |
| <input type="radio"/> 廃止            |                   |  |

### 5 第3次評価

|                                     |                   |        |
|-------------------------------------|-------------------|--------|
| 総合評価                                | 評価<br>の<br>根<br>拠 | 上記のとおり |
| <input type="radio"/> 拡充            |                   |        |
| <input type="radio"/> 継続            |                   |        |
| <input checked="" type="radio"/> 改善 |                   |        |
| <input type="radio"/> 縮小            |                   |        |
| <input type="radio"/> 統合            |                   |        |
| <input type="radio"/> 廃止            |                   |        |

## 事務事業概要書

|   |            |    |          |             |           |       |  |
|---|------------|----|----------|-------------|-----------|-------|--|
| 平成  | <b>30</b>  | 年度 |          |             | 担当者名      | 小林 健人 |  |
| 会計  | 01 一般会計    |    | 所属       | 総合政策部       | 企画課企画調整担当 |       |  |
| 款   | 総務費_02     | 項  | 総務管理費_01 |             | 目         | 14諸費  |  |
| 大事業   | 010 バス運行事業 |    | 中事業      | 01 市営バス運行事業 |           |       |  |
| <b>1 事務事業の目的</b>  |            |    |          |             |           |       |  |
| 日常生活に必要な移動手段として、市営バスの運行(生活の足)を維持確保する。   |            |    |          |             |           |       |  |
| <b>2 事務事業の対象</b>  |            |    |          |             |           |       |  |
| 主に当該路線沿線地域に居住している住民   |            |    |          |             |           |       |  |
| <b>3 現在の状態</b>  |            |    |          |             |           |       |  |
| 旧町村から引き継いだ、一宮地区の「一宮循環バス」、境川地区の「境川巡回バス」、芦川地区と石和温泉駅を結ぶ「芦川バス」の、3つの市営バスを運行している。   |            |    |          |             |           |       |  |
| <b>4 経緯</b>   |            |    |          |             |           |       |  |
| 車社会の進展に伴い、利用者の減少、赤字路線の拡大・撤退により民間交通事業者が担っていた地域公共交通網の弱体化が進んだため、自治体がシビルミニマムとして通院・買い物など地域住民の日常生活に必要な移動手段を確保することとなった。                                |            |    |          |             |           |       |  |
| <b>5 根拠法令</b>   |            |    |          |             |           |       |  |
| 根拠法令なし<br>(関係法令として、道路運送法、地域公共交通活性化及び再生に関する法律など)   |            |    |          |             |           |       |  |
| <b>6 ニーズ</b>  |            |    |          |             |           |       |  |
| 交通弱者等の市民⇒公共施設や医療機関、商業施設等へ不自由なく行きたい  |            |    |          |             |           |       |  |
| <b>7 ニーズを踏まえた課題認識</b>   |            |    |          |             |           |       |  |
| ニーズにぴったりと合ったダイヤ、ルートになっているのか、調査を行ったうえで、効率の良い市公共交通の在り方を検討する必要がある。<br>その上で、移動手段の充実及び利便性の向上を図る一方で、運行経費の削減や収入の増加など効率性の維持・向上も図らねばならず、双方のバランスを取る必要がある。 |            |    |          |             |           |       |  |
| <b>8 必要性</b>  |            |    |          |             |           |       |  |
| 市民、特に高齢者等の日常生活に必要な移動手段として、市営バスの運行(生活の足)を維持確保することは、通院、買い物、余暇活動など、利用者本人の生活の質(QOL)の向上のみならず、地域の社会インフラとして地域の持続性を保つためにも必要である。                         |            |    |          |             |           |       |  |

|  |
|--|
| <b>9 昨年度実施した事業内容</b>   |
| <p>実施内容<br/>市営バスの運行に係る業務委託及び維持管理並びに公共交通会議の開催</p> <p>歳入<br/>(1)負担金 1,000千円(市営一宮バスに係る一宮温泉病院負担金)<br/>(2)使用料 1,506千円(一宮循環バス及び境川巡回バス利用料)</p> <p>歳出<br/>(1)報償費 44千円(公共交通会議会長謝金)<br/>(2)旅費 23千円(研修旅費)<br/>(3)需用費 1,058千円(市営バス維持管理経費)<br/>(4)役務費 137千円(境川巡回バス車検)<br/>(5)委託費 24,512千円(市営バス運行委託)<br/>(6)使用料 120千円(芦川バス車庫土地賃借料)<br/>(7)備品購入費 26千円<br/>(8)公課費 7千円(境川巡回バス重量税)</p> |
| <b>10 事業で得られた成果</b>  |
| <p>高齢者の日常生活に必要な移動手段を確保したほか、鉄道や石和温泉駅に接続する幹線系統とのアクセス機能を高めることで、公共交通で対応可能な移動範囲を拡大した。<br/>当該路線の利用者は次のとおりである。<br/>一宮循環バス H29 11,675人、H28 12,889人、H27 11,917人<br/>境川巡回バス H29 4,458人、H28 2,686人、H27 2,492人<br/>芦川バス H29 7,307人、H28 8,576人、H27 9,218人<br/>芦川バスの利用者数については、減少傾向である。</p>   |
| <b>11 事業の効果</b>  |
| <p>沿線地域の公共交通の活性化や利用者の利便性向上に寄与した。</p>   |
| <b>12 事業実施期間</b>   |
| <p>終期設定なし</p>  |
| <b>13 行政が関与する妥当性</b>   |
| <p>道路運送法並びに地域公共交通の活性化及び再生に関する法律を考慮すると、基礎自治体である市が地域住民の日常生活に必要な移動手段を維持確保することは妥当である。<br/>公共交通は地域によって営利事業として成立しにくく、路線バスの撤退が相次ぐなど公共交通網の弱体化が進行しているが、日常生活に不可欠な社会インフラであるため、行政が関与することが妥当である。</p>  |
| <b>14 緊急性</b>  |
| <p>なし</p>  |
| <b>15 類似事業</b>   |
| <p>なし</p>  |

## 評価調書

|       |                  |
|-------|------------------|
| 事務事業名 | 市営バス運行事業         |
| 所 属 名 | 総合政策部 企画課 企画調整担当 |

### 1 所管課による評価

#### (1) 事務事業を実施する妥当性

|       |   |
|-------|---|
| 評価結果  | <input type="radio"/> ① 不特定多数の市民に提供され、日常生活に必要不可欠なサービス       |
|       | <input checked="" type="radio"/> ② 不特定多数の市民に提供されるが、選択的なサービス |
|       | <input type="radio"/> ③ 特定の個人又は集団に提供され、日常生活に必要不可欠なサービス      |
|       | <input type="radio"/> ④ 特定の個人又は集団に提供され、選択的なサービス             |
| 評価の根拠 | 沿線に在住の方で、かつ高齢者や車を利用できない交通弱者が主に利用している。                       |

#### (2) 行政が関与する妥当性

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 評価結果                    | <input type="radio"/> ① 法令及び条例によりサービスが義務付けられている事業   |
|                         | <input type="radio"/> ② 国、県、市の共同事業  |
|                         | <input type="radio"/> ③ 民間ではできない、又は民間では実施していない事業  |
|                         | <input checked="" type="radio"/> ④ 民間に同様、類似のサービスがあるが、質や量が不十分のため、補完する事業  |
|                         | <input type="radio"/> ⑤ 民間に同様、類似のサービスが存在する事業  |
| 評価の根拠                   | 民間の路線バスは路線数が不十分のため、空白となっている地域の公共交通サービスを行っている。また、公共交通は地域によって営利事業として成立しにくく、路線バスの撤退が相次ぐなど公共交通網の弱体化が進行しているが、日常生活に不可欠な社会インフラであるため、行政が関与することが妥当である。 |
| ①の場合、市が拡充(上乘せ)している事業である | <input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ  |
| 拡充の理由                   |   |

#### (3) 事務事業を実施する現時点での緊急性、切実度

|                        |  |
|------------------------|--|
| 評価結果                   | <input type="radio"/> ① 緊急事態への対応、最重要施策など最優先して実施する必要がある事業             |
|                        | <input checked="" type="radio"/> ② 日常的な安全、生活を確保するために、優先して実施する必要がある事業 |
|                        | <input type="radio"/> ③ 公共サービスの平均的水準を確保するために、実施する必要がある事業             |
|                        | <input type="radio"/> ④ 現時点での緊急性、切実度は低いものの、市の将来のために、実施することが望ましい事業    |
|                        | <input type="radio"/> ⑤ 現時点では、必ずしも実施しなくても良い事業                        |
| 評価の根拠                  | 公共交通の充実は、通院や買い物など日常生活に不可欠なものであり、暮らしやすいまちづくりを実現するために継続して実施する必要がある。    |
| いつから、いつまで実施しなければならないのか | 単年度繰返し(開始年度H16～)   |

#### (4) 市民ニーズ

|       |   |
|-------|---|
| 評価結果  | <input type="radio"/> ① 市民ニーズの有無にかかわらず実施する必要がある事業           |
|       | <input checked="" type="radio"/> ② 市民ニーズが増加傾向にある事業          |
|       | <input type="radio"/> ③ 市民ニーズが現状維持の傾向にある事業                  |
|       | <input type="radio"/> ④ 市民ニーズが減少傾向にある、あるいは事業に対する市民ニーズが曖昧である |
| 評価の根拠 | 超高齢化社会を迎え、車を運転しない高齢者はさらに増加していくものと思われる。                      |

## 評価調査

|       |                  |
|-------|------------------|
| 事務事業名 | 市営バス運行事業         |
| 所 属 名 | 総合政策部 企画課 企画調整担当 |

### (5) サービスを提供する主体の妥当性

|       |   |
|-------|---|
| 評価結果  | <input type="radio"/> ① 市が直営で実施すべき事業  |
|       | <input checked="" type="radio"/> ② 事業の一部、又は全部を民間委託すべき事業で、適切に委託している事業  |
|       | <input type="radio"/> ③ 事業の一部、又は全部を民間委託すべき事業で、委託の範囲に見直しの余地がある事業   |
|       | <input type="radio"/> ④ 事業の一部、又は全部を民間委託すべき事業だが、委託を行っていない事業  |
| 評価の根拠 | 境川巡回バスのみ、市営有償運送を行っており、一宮循環バス及び芦川バスについては一般乗合旅客自動車運送事業の許可を得ている事業者に委託を行っている。市営有償運送を行うためには条件があることに加え、輸送サービスの水準確保等のためには民間委託による運行が望ましい。 |

### (6) コストに対する評価

|  |   |   |                          |        |   |                     |          |   |
|--|---|---|--------------------------|--------|---|---------------------|----------|---|
| 年間経費(a)  | 29,067,365  | 円 | 一宮、境川、芦川地区住民<br>受益者数 (b) | 15,014 | 人 | 受益者あたりのコスト<br>(a/b) | 1,936.02 | 円 |
| 評価結果   | <input type="radio"/> ① 事業の成果及び効果に対し、最小限のコストで実施できている                      |   |                          |        |   |                     |          |   |
|  | <input type="radio"/> ② 事業の成果及び効果に対し、コストは妥当である                            |   |                          |        |   |                     |          |   |
|  | <input checked="" type="radio"/> ③ 事業の成果及び効果に対し、過大なコストが掛かっている             |   |                          |        |   |                     |          |   |
| 評価の根拠  | 地域に人口が少なく、利用者が多く見込まれない地域においても、公共交通を維持する必要があるため、受益者あたりのコストは他の路線と比べ高くなっている。 |   |                          |        |   |                     |          |   |
| コスト削減のための方策について記載  |   |   |                          |        |   |                     |          |   |
| 交通の態様やルート、ダイヤの見直しを行うことで、利用者の利便性を維持しながら効率化を行うことができる。ただし、利便性が低下するようであれば、費用対効果は悪化することが見込まれる。また、便数を削減する場合はバス停での待ち時間も増えることも考えられるため、停留所に上屋やベンチの設置など、バス待ち環境の改善を併せて行うことも考えられる。 |   |   |                          |        |   |                     |          |   |

## 2 経費

|                |           | H27年度       |            | H28年度       |            | H29年度       |            |
|----------------|-----------|-------------|------------|-------------|------------|-------------|------------|
| ① 事業費          | 円         | 25,365,669円 |            | 25,128,113円 |            | 25,927,343円 |            |
| ② 人件費          |           | 延従事者数       | 人件費        | 延従事者数       | 人件費        | 延従事者数       | 人件費        |
|                | 正 職 員     | 0.4 人       | 3,140,022円 | 0.4 人       | 3,140,022円 | 0.4 人       | 3,140,022円 |
|                | 再 任 用 職 員 | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         |
|                | 嘱 託 職 員   | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         |
|                | 臨 時 職 員   | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         |
|                | 人件費計      | 3,140,022円  |            | 3,140,022円  |            | 3,140,022円  |            |
| ③ 年間経費 (①+②)   |           | 28,505,691円 |            | 28,268,135円 |            | 29,067,365円 |            |
| ④ 国支出金         | 円         | 0円          |            | 0円          |            | 0円          |            |
| ⑤ 県支出金         | 円         | 0円          |            | 0円          |            | 0円          |            |
| ⑥ 地方債          | 円         | 0円          |            | 0円          |            | 0円          |            |
| ⑦ 使用料・手数料      | 円         | 2,351,000円  |            | 2,481,800円  |            | 2,505,800円  |            |
| ⑧ 財源合計 (④+⑤+⑦) |           | 2,351,000円  |            | 2,481,800円  |            | 2,505,800円  |            |
| ⑨ 市の負担額 (③-⑧)  |           | 26,154,691円 |            | 25,786,335円 |            | 26,561,565円 |            |
| ⑩ 受益者負担率 (⑦/③) | %         | 8.25%       |            | 8.78%       |            | 8.62%       |            |

## 評価調書

|       |                  |
|-------|------------------|
| 事務事業名 | 市営バス運行事業         |
| 所 属 名 | 総合政策部 企画課 企画調整担当 |

### 3 部長等による第1次評価

|                                     |                   |  |
|-------------------------------------|-------------------|--|
| 総合評価                                | 評価<br>の<br>根<br>拠 | 本市の地域公共交通は、サービスの地域間格差や利用者の減少といった課題を抱えている。<br>その課題の解決を図るため、今年度から地域公共交通の在り方を検討する。その中で、移動に関する市民ニーズを把握するための調査を実施し、それらのニーズに市としてどのように対応するのか、地域公共交通、福祉、市民活動等関係部署が一体となり、移動支援の仕組みを構築する。 |
| <input type="radio"/> 拡充            |                   |  |
| <input type="radio"/> 継続            |                   |  |
| <input checked="" type="radio"/> 改善 |                   |  |
| <input type="radio"/> 縮小            |                   |  |
| <input type="radio"/> 統合            |                   |  |
| <input type="radio"/> 廃止            |                   |  |

### 4 総合政策部による第2次評価

|                                     |                   |  |
|-------------------------------------|-------------------|--|
| 総合評価                                | 評価<br>の<br>根<br>拠 | 本市の地域公共交通は、サービスの地域間格差や利用者の減少といった課題を抱えている。<br>その課題の解決を図るため、今年度から地域公共交通の在り方を検討する。その中で、移動に関する市民ニーズを把握するための調査を実施し、それらのニーズに市としてどのように対応するのか、地域公共交通、福祉、市民活動等関係部署が一体となり、移動支援の仕組みを構築する。 |
| <input type="radio"/> 拡充            |                   |  |
| <input type="radio"/> 継続            |                   |  |
| <input checked="" type="radio"/> 改善 |                   |  |
| <input type="radio"/> 縮小            |                   |  |
| <input type="radio"/> 統合            |                   |  |
| <input type="radio"/> 廃止            |                   |  |

### 5 第3次評価

|                                     |                   |        |
|-------------------------------------|-------------------|--------|
| 総合評価                                | 評価<br>の<br>根<br>拠 | 上記のとおり |
| <input type="radio"/> 拡充            |                   |        |
| <input type="radio"/> 継続            |                   |        |
| <input checked="" type="radio"/> 改善 |                   |        |
| <input type="radio"/> 縮小            |                   |        |
| <input type="radio"/> 統合            |                   |        |
| <input type="radio"/> 廃止            |                   |        |



## 事務事業概要書

|   |           |    |          |          |           |         |  |
|---|-----------|----|----------|----------|-----------|---------|--|
| 平成  | <b>30</b> | 年度 |          |          | 担当者名      | 小林昭吾    |  |
| 会計  | 01 一般会計   |    | 所属       | 総合政策部    | 企画課広聴広報担当 |         |  |
| 款   | 総務費_02    | 項  | 総務管理費_01 |          | 目         | 03広聴広報費 |  |
| 大事業   | 08広報事業    |    | 中事業      | 03行政放送事業 |           |         |  |
| <b>1 事務事業の目的</b>  |           |    |          |          |           |         |  |
| 紙媒体だけでなく動画の利点を活かした情報発信を行い、より多くの市民へ情報を届ける。   |           |    |          |          |           |         |  |
| <b>2 事務事業の対象</b>  |           |    |          |          |           |         |  |
| 市民  |           |    |          |          |           |         |  |
| <b>3 現在の状態</b>  |           |    |          |          |           |         |  |
| 市民に対し、最新の市政情報および議会を身近に感じて頂けるように議会の模様を収録しテレビ放送をしている。   |           |    |          |          |           |         |  |
| <b>4 経緯</b>   |           |    |          |          |           |         |  |
| 合併以前に山間部のTV難視聴地域に対して行っていたケーブルTV放送を市内全域で継続して放送している。  |           |    |          |          |           |         |  |
| <b>5 根拠法令</b>   |           |    |          |          |           |         |  |
| 根拠となる法令無し   |           |    |          |          |           |         |  |
| <b>6 ニーズ</b>  |           |    |          |          |           |         |  |
| 議場に足を運べない方や都合により参観できない方でも議会の模様を視聴することができることから一定のニーズがあると思われる。  |           |    |          |          |           |         |  |
| <b>7 ニーズを踏まえた課題認識</b>   |           |    |          |          |           |         |  |
| CATVを通じて市内外(183,500世帯)へ、また、インターネットを利用し、HP(ストリーミング画像)から速やかに多くの人に視聴できるようにしており、最新の行政サービス情報の提供や情報発信を通じた開かれた議会を実現していることから課題はないと認識している。 |           |    |          |          |           |         |  |
| <b>8 必要性</b>  |           |    |          |          |           |         |  |
| 紙媒体とは違い電波配信することで、速やかに視聴者へ情報を届けられる。また、HP(ストリーミング画像)などのインターネット環境でも視聴することができ、情報化時代における必要性は高い。  |           |    |          |          |           |         |  |

|   |
|---|
| <b>9 昨年度実施した事業内容</b>  |
| <p>1 実施内容</p> <p>(1)日本ネットワークサービスのテレビ番組に毎日15分間の市政情報をテレビ回覧板として放送する</p> <p>(2)山梨日日新聞に市イベント記事掲載</p> <p>(3)市議会の模様をテレビおよびHP(ストリーミング画像)により放送</p> <p>(4)笛吹市PR番組の作成および放送</p> <p>2 歳出</p> <p>(1)委託料その他 10,914千円</p> <p>※内訳</p> <p>テレビ回覧板 129千円</p> <p>山梨日日新聞記事掲載 540千円</p> <p>笛吹市議会放送 10,032千円</p> <p>笛吹市PR番組 213千円</p> |
| <b>10 事業で得られた成果</b>   |
| <p>議会中継の動画配信により、いつでも、どこでも市議会の模様を見ることができるという開かれた議会を実現している。</p>   |
| <b>11 事業の効果</b>   |
| <p>誰もが議会の模様を視聴でき、開かれた議会であることを市内外へ情報発信することができた。</p>  |
| <b>12 事業実施期間</b>  |
| <p>継続実施</p>   |
| <b>13 行政が関与する妥当性</b>  |
| <p>最新の市政情報や市議会の中継を放送するため、市が行うことが妥当である。</p>  |
| <b>14 緊急性</b>   |
| <p>なし</p>   |
| <b>15 類似事業</b>  |
| <p>なし</p>   |

# 評価調書

|       |                  |
|-------|------------------|
| 事務事業名 | 行政放送事業           |
| 所 属 名 | 総合政策部 企画課 広聴広報担当 |

## 1 所管課による評価

### (1) 事務事業を実施する妥当性

|       |   |
|-------|---|
| 評価結果  | <input type="radio"/> ① 不特定多数の市民に提供され、日常生活に必要不可欠なサービス       |
|       | <input checked="" type="radio"/> ② 不特定多数の市民に提供されるが、選択的なサービス |
|       | <input type="radio"/> ③ 特定の個人又は集団に提供され、日常生活に必要不可欠なサービス      |
|       | <input type="radio"/> ④ 特定の個人又は集団に提供され、選択的なサービス             |
| 評価の根拠 | テレビとインターネットを通じ、速やかに市民へ情報を届けられる情報発信として妥当である。                 |

### (2) 行政が関与する妥当性

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 評価結果                    | <input type="radio"/> ① 法令及び条例によりサービスが義務付けられている事業           |
|                         | <input type="radio"/> ② 国、県、市の共同事業                          |
|                         | <input checked="" type="radio"/> ③ 民間ではできない、又は民間では実施していない事業 |
|                         | <input type="radio"/> ④ 民間に同様、類似のサービスがあるが、質や量が不十分なため、補完する事業 |
|                         | <input type="radio"/> ⑤ 民間に同様、類似のサービスが存在する事業                |
| 評価の根拠                   | 民間事業者が、実施することは可能であるが実施しないため、市の事業として行う必要がある。                 |
| ①の場合、市が拡充(上乘せ)している事業である | <input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ          |
| 拡充の理由                   |   |

### (3) 事務事業を実施する現時点での緊急性、切実度

|                        |  |
|------------------------|--|
| 評価結果                   | <input type="radio"/> ① 緊急事態への対応、最重要施策など最優先して実施する必要がある事業   |
|                        | <input type="radio"/> ② 日常的な安全、生活を確保するために、優先して実施する必要がある事業  |
|                        | <input checked="" type="radio"/> ③ 公共サービスの平均的水準を確保するために、実施する必要がある事業                              |
|                        | <input type="radio"/> ④ 現時点での緊急性、切実度は低いものの、市の将来のために、実施することが望ましい事業                                |
|                        | <input type="radio"/> ⑤ 現時点では、必ずしも実施しなくても良い事業  |
| 評価の根拠                  | テレビやインターネットを利用した市政・議会情報の発信は社会的に一定のニーズが存在する事業であり、特に議会は民主主義の根幹であることから議会の模様を自由に取得できる環境を整えることは重要である。 |
| いつから、いつまで実施しなければならないのか | 永年   |

### (4) 市民ニーズ

|       |  |
|-------|--|
| 評価結果  | <input checked="" type="radio"/> ① 市民ニーズの有無にかかわらず実施する必要がある事業 |
|       | <input type="radio"/> ② 市民ニーズが増加傾向にある事業                      |
|       | <input type="radio"/> ③ 市民ニーズが現状維持の傾向にある事業                   |
|       | <input type="radio"/> ④ 市民ニーズが減少傾向にある、あるいは事業に対する市民ニーズが曖昧である  |
| 評価の根拠 | 市議会は、民主主義の根幹であることから、市民ニーズにかかわらず実施する必要がある。                    |

## 評価調書

|       |                  |
|-------|------------------|
| 事務事業名 | 行政放送事業           |
| 所 属 名 | 総合政策部 企画課 広聴広報担当 |

### (5) サービスを提供する主体の妥当性

|       |  |
|-------|--|
| 評価結果  | <input type="radio"/> ① 市が直営で実施すべき事業                                 |
|       | <input checked="" type="radio"/> ② 事業の一部、又は全部を民間委託すべき事業で、適切に委託している事業 |
|       | <input type="radio"/> ③ 事業の一部、又は全部を民間委託すべき事業で、委託の範囲に見直しの余地がある事業      |
|       | <input type="radio"/> ④ 事業の一部、又は全部を民間委託すべき事業だが、委託を行っていない事業           |
| 評価の根拠 | 放送事業者でしか実施することができないことから事業を民間委託する必要がある。                               |

### (6) コストに対する評価

|  |   |   |                |        |   |                     |        |   |
|--|---|---|----------------|--------|---|---------------------|--------|---|
| 年間経費(a)  | 13,269,187  | 円 | 市民<br>受益者数 (b) | 70,183 | 人 | 受益者あたりのコスト<br>(a/b) | 189.07 | 円 |
| 評価結果   | <input type="radio"/> ① 事業の成果及び効果に対し、最小限のコストで実施できている                        |   |                |        |   |                     |        |   |
|  | <input checked="" type="radio"/> ② 事業の成果及び効果に対し、コストは妥当である                   |   |                |        |   |                     |        |   |
|  | <input type="radio"/> ③ 事業の成果及び効果に対し、過大なコストが掛かっている                          |   |                |        |   |                     |        |   |
| 評価の根拠  | 放送事業者の現状を踏まえた中で、より多くの市民が情報を取得できるテレビ媒体を選択していること。また、事業執行は適正に実施しており、コストは妥当である。 |   |                |        |   |                     |        |   |
| コスト削減のための方策について記載  |   |   |                |        |   |                     |        |   |
| 現状と同じサービスでコストを削減することはできないが、提供するサービスの水準を下げることで可能となり、テレビ放送を取りやめ、インターネット上へ動画の配信だけを行うことでコストを削減できる。 |   |   |                |        |   |                     |        |   |

## 2 経費

|                |           | H27年度       |            | H28年度       |            | H29年度       |            |
|----------------|-----------|-------------|------------|-------------|------------|-------------|------------|
| ① 事業費          | 円         | 11,351,301円 |            | 10,872,152円 |            | 10,914,170円 |            |
| ② 人件費          |           | 延従事者数       | 人件費        | 延従事者数       | 人件費        | 延従事者数       | 人件費        |
|                | 正 職 員     | 0.3 人       | 2,355,017円 | 0.3 人       | 2,355,017円 | 0.3 人       | 2,355,017円 |
|                | 再 任 用 職 員 | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         |
|                | 嘱 託 職 員   | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         |
|                | 臨 時 職 員   | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         | 0.0 人       | 0円         |
|                | 人件費計      | 2,355,017円  |            | 2,355,017円  |            | 2,355,017円  |            |
| ③ 年間経費 (①+②)   |           | 13,706,318円 |            | 13,227,169円 |            | 13,269,187円 |            |
| ④ 国支出金         | 円         | 0円          |            | 0円          |            | 0円          |            |
| ⑤ 県支出金         | 円         | 0円          |            | 0円          |            | 0円          |            |
| ⑥ 地方債          | 円         | 0円          |            | 0円          |            | 0円          |            |
| ⑦ 使用料・手数料      | 円         | 0円          |            | 0円          |            | 0円          |            |
| ⑧ 財源合計 (④+⑤+⑦) |           | 0円          |            | 0円          |            | 0円          |            |
| ⑨ 市の負担額 (③-⑧)  |           | 13,706,318円 |            | 13,227,169円 |            | 13,269,187円 |            |
| ⑩ 受益者負担率 (⑦/③) | %         | 0.00%       |            | 0.00%       |            | 0.00%       |            |

## 評価調書

|       |                  |
|-------|------------------|
| 事務事業名 | 行政放送事業           |
| 所 属 名 | 総合政策部 企画課 広聴広報担当 |

### 3 部長等による第1次評価

|                                     |       |   |
|-------------------------------------|-------|---|
| 総合評価                                | 評価の根拠 | 市政の情報は、多様な媒体によりお知らせする必要があるが、それが市民の目に触れなければ意味がない。より多くの市民に視聴していただけるよう、番組の周知方法を工夫していく。 |
| <input type="radio"/> 拡充            |       |   |
| <input checked="" type="radio"/> 継続 |       |   |
| <input type="radio"/> 改善            |       |   |
| <input type="radio"/> 縮小            |       |   |
| <input type="radio"/> 統合            |       |   |
| <input type="radio"/> 廃止            |       |   |

### 4 総合政策部による第2次評価

|                                     |       |   |
|-------------------------------------|-------|---|
| 総合評価                                | 評価の根拠 | 市政の情報は、多様な媒体によりお知らせする必要があるが、それが市民の目に触れなければ意味がない。より多くの市民に視聴していただけるよう、番組の周知方法を工夫していく。 |
| <input type="radio"/> 拡充            |       |   |
| <input checked="" type="radio"/> 継続 |       |   |
| <input type="radio"/> 改善            |       |   |
| <input type="radio"/> 縮小            |       |   |
| <input type="radio"/> 統合            |       |   |
| <input type="radio"/> 廃止            |       |   |

### 5 第3次評価

|                                     |       |        |
|-------------------------------------|-------|--------|
| 総合評価                                | 評価の根拠 | 上記のとおり |
| <input type="radio"/> 拡充            |       |        |
| <input checked="" type="radio"/> 継続 |       |        |
| <input type="radio"/> 改善            |       |        |
| <input type="radio"/> 縮小            |       |        |
| <input type="radio"/> 統合            |       |        |
| <input type="radio"/> 廃止            |       |        |

# 事務事業概要書

|  |           |    |          |       |         |       |  |
|--|-----------|----|----------|-------|---------|-------|--|
| 平成   | <b>30</b> | 年度 |          |       | 担当者名    | 柿嶋 信  |  |
| 会計   | 01 一般会計   |    | 所属       | 総合政策部 | 財政課財政担当 |       |  |
| 款  | 総務費_02    | 項  | 総務管理費_01 |       | 目       | 05企画費 |  |
| 大事業  | 財政管理事務    |    |          | 中事業   | 財政管理事務  |       |  |
| <b>1 事務事業の目的</b>   |           |    |          |       |         |       |  |
| 自治体運営のため、一般会計・特別会計の予算決算について法令に基づき適切な管理を行う。その手段として財務会計システムを用い公会計制度に則って財務4表を作成・公表し財政運営に活用していく。 |           |    |          |       |         |       |  |
| <b>2 事務事業の対象</b>   |           |    |          |       |         |       |  |
| 市民、市職員   |           |    |          |       |         |       |  |
| <b>3 現在の状態</b>   |           |    |          |       |         |       |  |
| 平成28年度決算(平成29年度)から統一的な基準での公会計制度を導入している。  |           |    |          |       |         |       |  |
| <b>4 経緯</b>  |           |    |          |       |         |       |  |
| 自治体運営のため毎年継続的に実施   |           |    |          |       |         |       |  |
| <b>5 根拠法令</b>  |           |    |          |       |         |       |  |
| 地方自治法、地方財政法、笛吹市財務規則、笛吹市事務決裁規程  |           |    |          |       |         |       |  |
| <b>6 ニーズ</b>   |           |    |          |       |         |       |  |
| 市民＝法令に基づく適正な予算管理及び情報公開<br>職員＝スムーズな予算編成及び執行   |           |    |          |       |         |       |  |
| <b>7 ニーズを踏まえた課題認識</b>  |           |    |          |       |         |       |  |
| 法令、規則に基づく適正な予算管理及び執行を市役所全体で行う。また、それらの情報を、分かりやすく市民へ説明する。財務規則等職員への周知、徹底                        |           |    |          |       |         |       |  |
| <b>8 必要性</b>   |           |    |          |       |         |       |  |
| 法令、規則に基づく適正な予算管理及び執行を市役所全体で行う。また、それらの情報を、分かりやすく市民へ説明する。財務規則等職員への周知、徹底                        |           |    |          |       |         |       |  |

## 9 昨年度実施した事業内容

実施主体は笛吹市。事業期間は永続的に実施。

- ア 旅費＝財政研修等参加職員旅費(交付税、起債、予算、公会計の実施研修への参加旅費)
- イ 需用費＝財政事務運営での書籍購入と印刷費用
  - (ア) 消耗品費
    - a 地方財務実務提要の追録分、年4回分の経費
    - b 「地方財務」年間購読の経費
    - c 財務事務図書購入で、主に新制度である公会計参考図書の新規購入経費
  - (イ) 印刷製本費
    - a 当初予算書、決算書、主要施策成果報告書等の印刷製本委託
- ウ 委託料＝公会計の開始に伴う業務委託とシステム保守委託料
  - (ア) 統一的な基準による地方公会計制度に伴うコンサルティング業務委託
    - a 今年度から実施しなければならない財務4表を作成するための専門家へのコンサルティング業務委託。  
職員への研修実施や4表を作成する上での伝票仕分け判断依頼等、専門的知識により公会計制度への対応をする上での業務委託
    - b 会計課で使用している源泉徴収システム(Reams財務会計システムと連携し、源泉徴収をするために必要な既に運用開始しているシステム)の保守委託料
  - エ 使用料及び賃借料＝財務実務大全の使用料
    - (ア) 地方財務実務大全「コンシェルジュデスク」使用料
      - a 第一法規のクラウドサービスであるコンシェルジュデスクにより財政運営上の実務に沿った情報が得られるサービス。様々な事例に対応しており、実務提要を補完するサービスとして活用。
- オ 負担金、補助及び交付金＝システム関連の経費(共同利用であるため負担金として支出している)
  - (ア) 旧起債管理システム期間延長負担金・・・H28年度決算処理が終わるまでの9月末まで旧システムを使用する ための延長費用
  - (イ) 新起債管理システム負担金・・・Reams財務会計システムのオプションである起債システムの費用
  - (ウ) 財政研修負担金・・・公会計等財務研修等の負担金
  - (エ) 伝票データ移行負担金・・・旧財務システムから新財務システム(Reams)へのデータ移行費用
  - (オ) 地方公会計システム負担金・・・Reams公会計システムの費用

## 10 事業で得られた成果

当初予算及び補正予算、予算書、決算書、財務4表

## 11 事業の効果

市民向け＝情報公開による透明性の確保と信頼性の向上  
職員向け＝スムーズな予算執行による事務の効率化

## 12 事業実施期間

毎年度継続

## 13 行政が関与する妥当性

財政運営のため必要な事業として妥当である。

## 14 緊急性

なし

## 15 類似事業

なし

## 評価調書

|       |                |
|-------|----------------|
| 事務事業名 | 財政管理事務         |
| 所属名   | 総合政策部 財政課 財政担当 |

### 1 所管課による評価

#### (1) 事務事業を実施する妥当性

|       |  |
|-------|--|
| 評価結果  | <input checked="" type="radio"/> ① 不特定多数の市民に提供され、日常生活に必要不可欠なサービス               |
|       | <input type="radio"/> ② 不特定多数の市民に提供されるが、選択的なサービス                               |
|       | <input type="radio"/> ③ 特定の個人又は集団に提供され、日常生活に必要不可欠なサービス                         |
|       | <input type="radio"/> ④ 特定の個人又は集団に提供され、選択的なサービス                                |
| 評価の根拠 | 市の住民サービスに関する費用(予算)を配分・管理している事業であり、市民の目には直接触れないが、持続的に市民サービスを提供するために必要不可欠な事業である。 |

#### (2) 行政が関与する妥当性

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 評価結果                    | <input checked="" type="radio"/> ① 法令及び条例によりサービスが義務付けられている事業  |
|                         | <input type="radio"/> ② 国、県、市の共同事業                            |
|                         | <input type="radio"/> ③ 民間ではできない、又は民間では実施していない事業              |
|                         | <input type="radio"/> ④ 民間に同様、類似のサービスがあるが、質や量が不十分なため、補完する事業   |
|                         | <input type="radio"/> ⑤ 民間に同様、類似のサービスが存在する事業                  |
| 評価の根拠                   | 健全な財政運営を行うにあたり、自治体(行政)が行うべき事務である。                             |
| ①の場合、市が拡充(上乘せ)している事業である | <input type="radio"/> はい <input checked="" type="radio"/> いいえ |
| 拡充の理由                   |   |

#### (3) 事務事業を実施する現時点での緊急性、切実度

|                        |   |
|------------------------|---|
| 評価結果                   | <input checked="" type="radio"/> ① 緊急事態への対応、最重要施策など最優先して実施する必要がある事業 |
|                        | <input type="radio"/> ② 日常的な安全、生活を確保するために、優先して実施する必要がある事業           |
|                        | <input type="radio"/> ③ 公共サービスの平均的水準を確保するために、実施する必要がある事業            |
|                        | <input type="radio"/> ④ 現時点での緊急性、切実度は低いものの、市の将来のために、実施することが望ましい事業   |
|                        | <input type="radio"/> ⑤ 現時点では、必ずしも実施しなくても良い事業                       |
| 評価の根拠                  | 本事業を実施しないと、予算配分等ができなくなるため、他の事業(住民サービス)が実施できなくなる。                    |
| いつから、いつまで実施しなければならないのか | 自治体が存続する限り  |

#### (4) 市民ニーズ

|       |  |
|-------|--|
| 評価結果  | <input checked="" type="radio"/> ① 市民ニーズの有無にかかわらず実施する必要がある事業 |
|       | <input type="radio"/> ② 市民ニーズが増加傾向にある事業                      |
|       | <input type="radio"/> ③ 市民ニーズが現状維持の傾向にある事業                   |
|       | <input type="radio"/> ④ 市民ニーズが減少傾向にある、あるいは事業に対する市民ニーズが曖昧である  |
| 評価の根拠 | 市民ニーズには、関係なく実施しなければならない事業である。                                |



## 評価調書

|       |                |
|-------|----------------|
| 事務事業名 | 財政管理事務         |
| 所 属 名 | 総合政策部 財政課 財政担当 |

### (5) サービスを提供する主体の妥当性

|       |   |
|-------|---|
| 評価結果  | <input checked="" type="radio"/> ① 市が直営で実施すべき事業                 |
|       | <input type="radio"/> ② 事業の一部、又は全部を民間委託すべき事業で、適切に委託している事業       |
|       | <input type="radio"/> ③ 事業の一部、又は全部を民間委託すべき事業で、委託の範囲に見直しの余地がある事業 |
|       | <input type="radio"/> ④ 事業の一部、又は全部を民間委託すべき事業だが、委託を行っていない事業      |
| 評価の根拠 | 市の財政運営を行う事務であり、民間には委託できない。                                      |

### (6) コストに対する評価

|  |  |   |                |        |   |                     |        |   |
|--|--|---|----------------|--------|---|---------------------|--------|---|
| 年間経費(a)  | 45,206,611   | 円 | 市民<br>受益者数 (b) | 69,861 | 人 | 受益者あたりのコスト<br>(a/b) | 647.09 | 円 |
| 評価結果   | <input type="radio"/> ① 事業の成果及び効果に対し、最小限のコストで実施できている   |   |                |        |   |                     |        |   |
|  | <input checked="" type="radio"/> ② 事業の成果及び効果に対し、コストは妥当である  |   |                |        |   |                     |        |   |
|  | <input type="radio"/> ③ 事業の成果及び効果に対し、過大なコストが掛かっている   |   |                |        |   |                     |        |   |
| 評価の根拠  | 新会計基準による財務諸表作成コンサルティングを委託しているため、その分増加しているが、他の経費については、予算書、決算書等の印刷製本費や財務関連のシステム負担金などの必要経費であるため妥当である。 |   |                |        |   |                     |        |   |
| コスト削減のための方策について記載  |  |   |                |        |   |                     |        |   |
| 新会計基準による財務諸表作成のためのコンサルティングを委託しているため、作成に伴うノウハウを習得すれば、委託を行わないため、委託料を削減できる。 |  |   |                |        |   |                     |        |   |

## 2 経費

|                |           | H27年度       |             | H28年度       |             | H29年度       |             |
|----------------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| ① 事業費          | 円         | 1,765,290円  |             | 5,122,715円  |             | 5,956,331円  |             |
| ② 人件費          |           | 延従事者数       | 人件費         | 延従事者数       | 人件費         | 延従事者数       | 人件費         |
|                | 正 職 員     | 5.0 人       | 39,250,280円 | 5.0 人       | 39,250,280円 | 5.0 人       | 39,250,280円 |
|                | 再 任 用 職 員 | 0.0 人       | 0円          | 0.0 人       | 0円          | 0.0 人       | 0円          |
|                | 嘱 託 職 員   | 0.0 人       | 0円          | 0.0 人       | 0円          | 0.0 人       | 0円          |
|                | 臨 時 職 員   | 0.0 人       | 0円          | 0.0 人       | 0円          | 0.0 人       | 0円          |
|                | 人件費計      | 39,250,280円 |             | 39,250,280円 |             | 39,250,280円 |             |
| ③ 年間経費 (①+②)   |           | 41,015,570円 |             | 44,372,995円 |             | 45,206,611円 |             |
| ④ 国支出金         | 円         | 0円          |             | 0円          |             | 0円          |             |
| ⑤ 県支出金         | 円         | 0円          |             | 0円          |             | 0円          |             |
| ⑥ 地方債          | 円         | 0円          |             | 0円          |             | 0円          |             |
| ⑦ 使用料・手数料      | 円         | 0円          |             | 0円          |             | 0円          |             |
| ⑧ 財源合計 (④+⑤+⑦) |           | 0円          |             | 0円          |             | 0円          |             |
| ⑨ 市の負担額 (③-⑧)  |           | 41,015,570円 |             | 44,372,995円 |             | 45,206,611円 |             |
| ⑩ 受益者負担率 (⑦/③) | %         | 0.00%       |             | 0.00%       |             | 0.00%       |             |

## 評価調書

|       |                |
|-------|----------------|
| 事務事業名 | 財政管理事務         |
| 所 属 名 | 総合政策部 財政課 財政担当 |

### 3 部長等による第1次評価

|                                     |                   |                                   |
|-------------------------------------|-------------------|-----------------------------------|
| 総合評価                                | 評価<br>の<br>根<br>拠 | 自治体運営のために、必要不可欠な事業であり今後も継続して実施する。 |
| <input type="radio"/> 拡充            |                   |                                   |
| <input checked="" type="radio"/> 継続 |                   |                                   |
| <input type="radio"/> 改善            |                   |                                   |
| <input type="radio"/> 縮小            |                   |                                   |
| <input type="radio"/> 統合            |                   |                                   |
| <input type="radio"/> 廃止            |                   |                                   |

### 4 総合政策部による第2次評価

|                                     |                   |                                   |
|-------------------------------------|-------------------|-----------------------------------|
| 総合評価                                | 評価<br>の<br>根<br>拠 | 自治体運営のために、必要不可欠な事業であり今後も継続して実施する。 |
| <input type="radio"/> 拡充            |                   |                                   |
| <input checked="" type="radio"/> 継続 |                   |                                   |
| <input type="radio"/> 改善            |                   |                                   |
| <input type="radio"/> 縮小            |                   |                                   |
| <input type="radio"/> 統合            |                   |                                   |
| <input type="radio"/> 廃止            |                   |                                   |

### 5 第3次評価

|                                     |                   |        |
|-------------------------------------|-------------------|--------|
| 総合評価                                | 評価<br>の<br>根<br>拠 | 上記のとおり |
| <input type="radio"/> 拡充            |                   |        |
| <input checked="" type="radio"/> 継続 |                   |        |
| <input type="radio"/> 改善            |                   |        |
| <input type="radio"/> 縮小            |                   |        |
| <input type="radio"/> 統合            |                   |        |
| <input type="radio"/> 廃止            |                   |        |